

シートベルトの重要性

2017年8月

在オークランド総領事館

2017年8月21日より4日間、NZ HERALD紙では「車のシートベルト着用がいかに命を救ってくれるか」を題材に特集記事を掲載しました。

ニュージーランドでは過去5年間、シートベルト非着用時の交通事故により300人以上の犠牲者が発生し、その大半が2016年に発生しているとして、シートベルト着用の重要性について訴えています。ここでは、この記事の概要をご紹介します。

2016年、ニュージーランドではシートベルト非着用時の交通事故死亡者数が100人近くにのぼった。また、シートベルトを着用していない事によって404人が負傷者となり、その内の3割以上は一生涯または長期にわたる治療を要する後遺症が残る重傷を負った。頭部損傷、脳卒中など深刻な負傷者は179人にものぼり、その大半の170名は運転手であったが、シートベルトを着用さえしていれば深刻な怪我を避けられたはずであった。また、身体被害に加え、救急医療などを含む社会的費用への影響も懸念されている。運輸省によると、死亡者が出た事故に関連する社会的費用はNZ\$4,729,000にもものぼると言われている。

こうした深刻な重傷事故はシートベルトを着用していないことが大きな一因となっており、特に腹部損傷、内蔵破裂、脊柱麻痺などの後遺症が残る負傷が多く、走行速度が高いほど重傷を負う危険性が高い。また、シートベルトをしていないことによって、事故の衝撃で車外へ放出され、命にかかわる重大な怪我に繋がるケースも多数報告されている。また、チャイルドシート着用や小児など身体に合わせたシートベルトの適切な着用の重要性も訴えている。

ポイントは次の通り。

- シートベルトは乗車時の命綱。交通事故だけでなく急ブレーキ時にも身を守ってくれる。
- シートベルトは衝突時にかかる体重の20倍ほどの力の衝撃から守ってくれる。シートベルト非着用時にはその衝撃に直面することになり大変危険である。
- シートベルト着用によって交通事故による死亡率及び負傷率が40%軽減される。
- 事故が起こった場合、運転席、助手席、後部座席の危険性に差はない。
- ニュージーランドの法律では運転手、同乗者及び乳幼児は必ずシートベルト等を着用することが義務付けられている。
- ニュージーランド警察は、過去5年間でシートベルト非着用時の事故で死亡した300人の過半数がシートベルトを着用していれば死亡を防げた事故であったとしている。

以上